

## Ⅲ. 本計画の目標

### 1. 本計画（第二次計画）の目標設定の考え方

第一次計画の策定後、職員一人ひとりの努力を重ねた結果、エネルギーの有効利用、廃棄物の発生抑制、資源の有効利用などの取組が進み、削減目標、取組目標とも達成することができました。

第二次計画の目標は、第一次計画の成果を踏まえ、次の考えを基に設定します。

#### ① 省エネルギー・省資源の推進【削減可能量：0 (t-CO<sub>2</sub>/年)】

職員一人ひとりによる取組みを、これまでどおり継続、維持します。ちょっとした工夫や心がけを積み重ねていきます。

#### ② 新エネルギーの導入【削減可能量：-470.5 (t-CO<sub>2</sub>/年)】

新エネルギービジョンに基づき、太陽光発電や太陽熱温水器、天然ガスコージェネレーション、新エネルギーによる街路灯などの新エネルギー設備の導入を進めます。

これらの取組は、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の削減はもちろん、市民や事業者への啓発や学習効果なども期待できます。

#### ● 参考：新エネルギービジョンによる公共施設での新エネルギー導入

和光市新エネルギービジョン（平成18年2月、和光市）に示す「プロジェクト3：公共施設への新エネルギーの率先導入を目指して」では、太陽光発電設備及び天然ガスコージェネレーション設備の導入を想定し、化石燃料削減量180kL/年を見込んでいる。

ここで、原油の発熱量を9,126kcal/原油(L)、発熱量当たりCO<sub>2</sub>排出源単位を0.7811 (t-C/toe)、1toe=107kcalとする（出典：エネルギー・経済統計要覧）。

公共施設での新エネルギーの率先導入によるCO<sub>2</sub>削減可能量は、470.5t-CO<sub>2</sub>/年の削減を見込んだ。

#### ③ 市全域でのごみ減量と、焼却効率の向上

【削減可能量：-1,289.2 (t-CO<sub>2</sub>/年)】

市の事務事業に伴う温室効果ガス総排出量の半数以上が一般廃棄物の焼却に起因しています。

そこで、市民等によるごみ（特に廃プラスチック）の減量、清掃センターの施設改善による燃焼効率の向上を図り、排出量の削減に努めます。

## 2. 削減目標・取組目標

地球温暖化防止に貢献するため、温室効果ガス総排出量の削減目標及び取組目標を次のとおり設定します。

### ● 温室効果ガス総排出量の削減目標

項目	基準値 ※1	目標値 ※2 (平成 22 年度末)
温室効果ガス総排出量	11,995 t-CO <sub>2</sub>	10%以上削減

※1 基準値は、基準年度である平成 17 年度の実績値を示します。

※2 目標値は、本計画の適用範囲に示す本庁舎及び出先施設を対象とします。  
本計画策定後の市有施設の新設及び廃止は、別途目標値を設定します。

### ● 温暖化防止に向けた取組目標

項目		基準値 ※1	目標値 ※2 (平成 22 年度末)
省エネルギー・ 省資源の推進	電気使用量	10,291,885kwh	現状レベルを維持
	ガソリン使用量	23,519L	現状レベルを維持
	ガス使用量	都市ガス 299,455m <sup>3</sup> LP ガス 65,010kg	現状レベルを維持
	その他燃料使用量	灯油 114,582L A 重油 13,813L	現状レベルを維持
	庁舎からの廃棄物排出量	—	2%削減
	グリーン購入・調達	—	グリーン購入の徹底
新エネルギーの 導入	市有施設における 新エネルギー導入 による CO <sub>2</sub> 削減	—	470.5 t-CO <sub>2</sub> 以上
市全域でのごみ減量 と、焼却効率の向上	廃プラスチック焼却量	2,441 t	1,960 t 以下

※1 基準値は、基準年度である平成 17 年度の実績値を示します。

※2 目標値は、本計画の適用範囲に示す本庁舎及び出先施設を対象とします。  
本計画策定後の市有施設の新設及び廃止は、別途目標値を設定します。